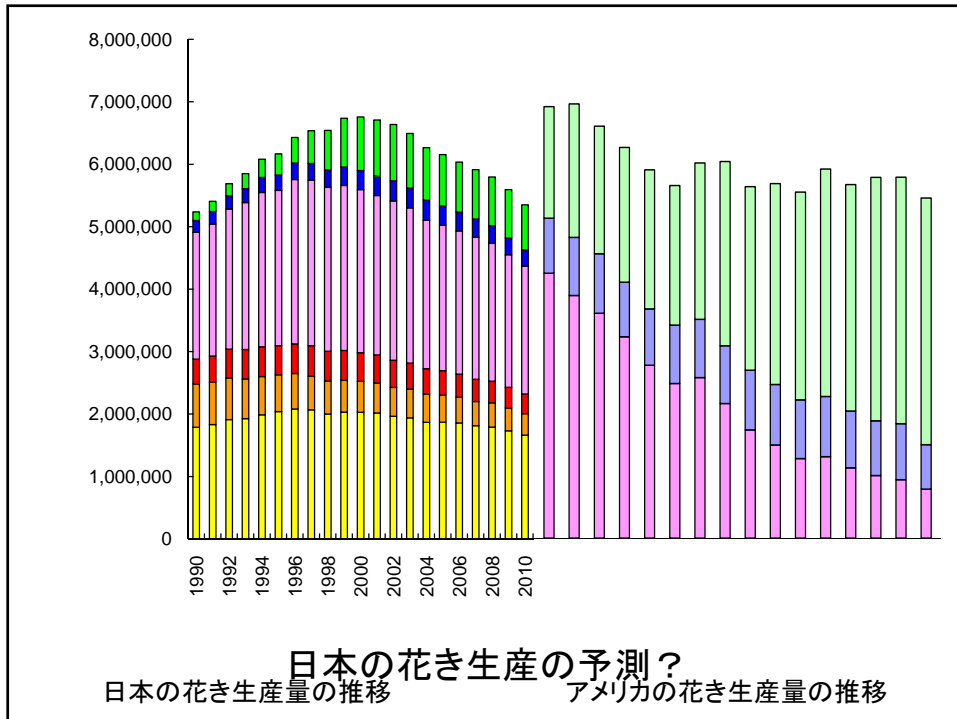
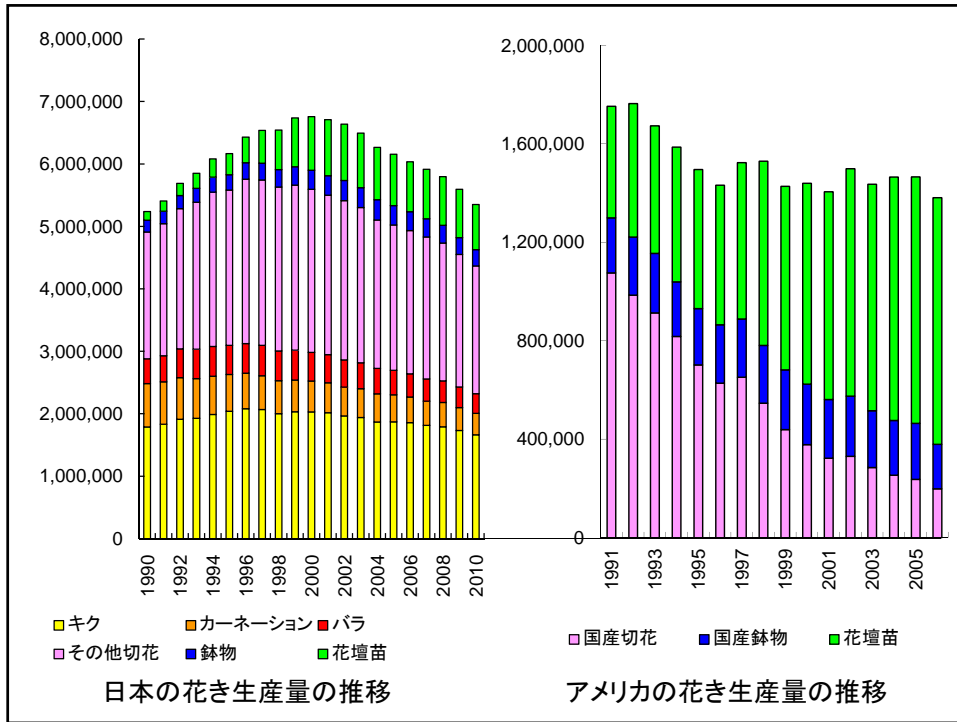
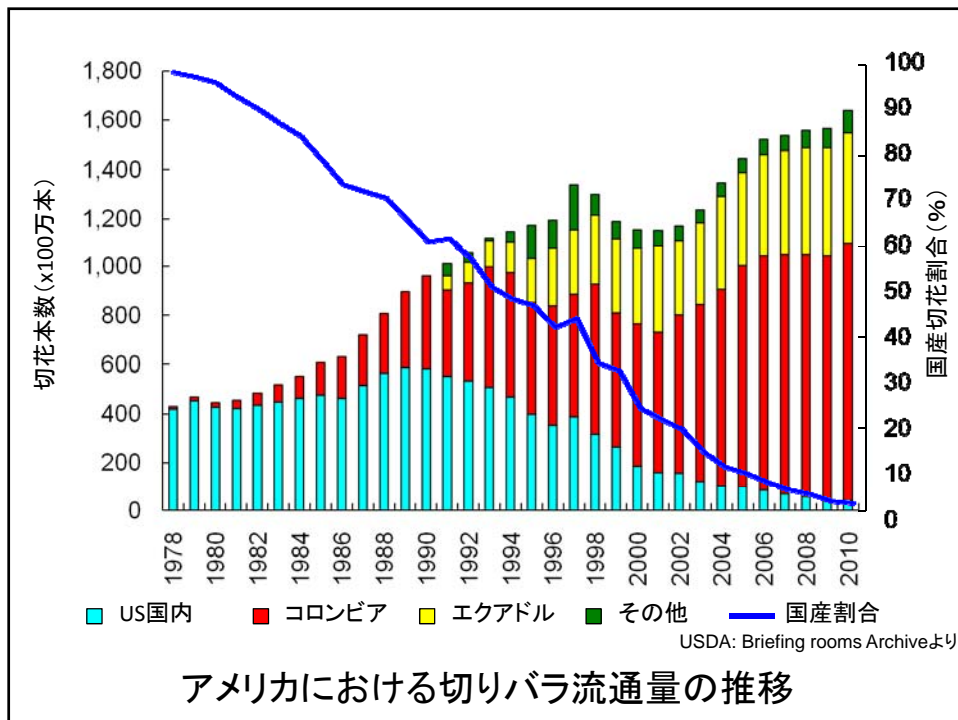
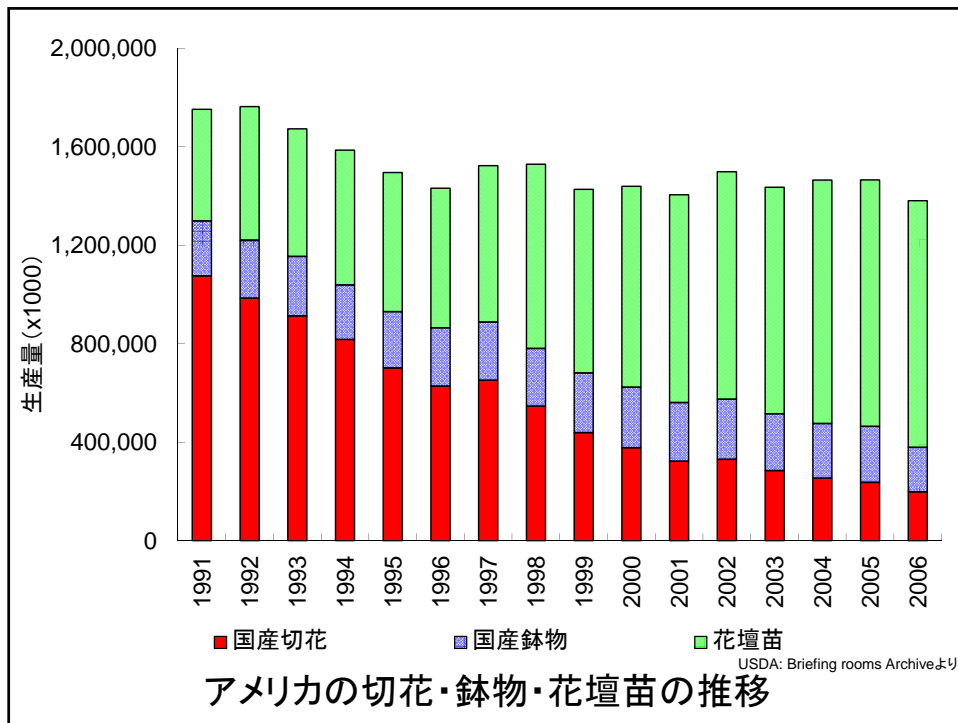


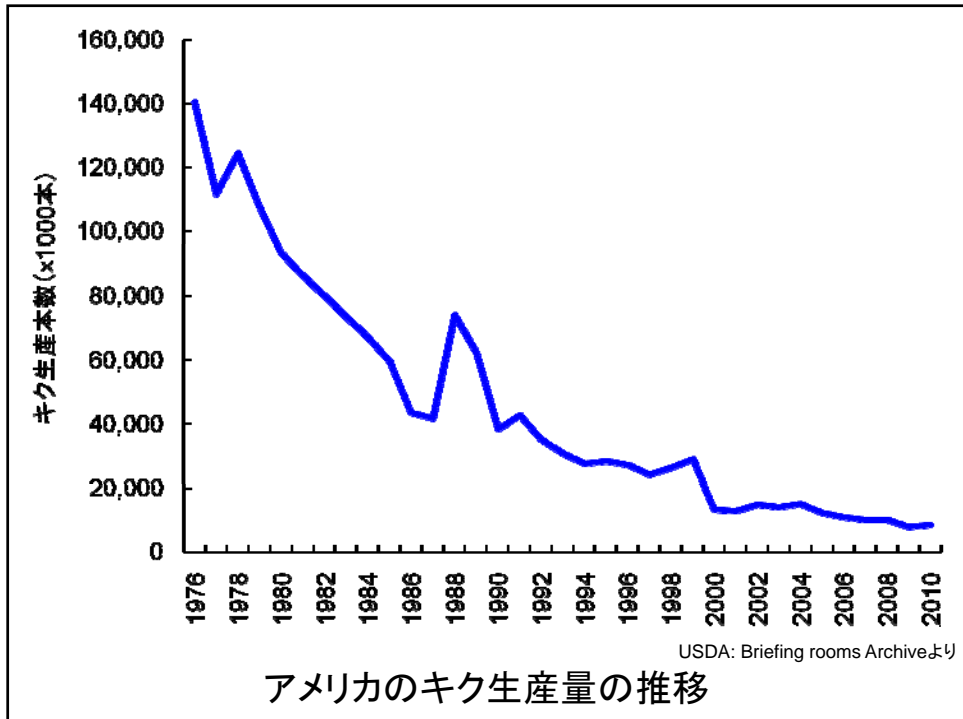
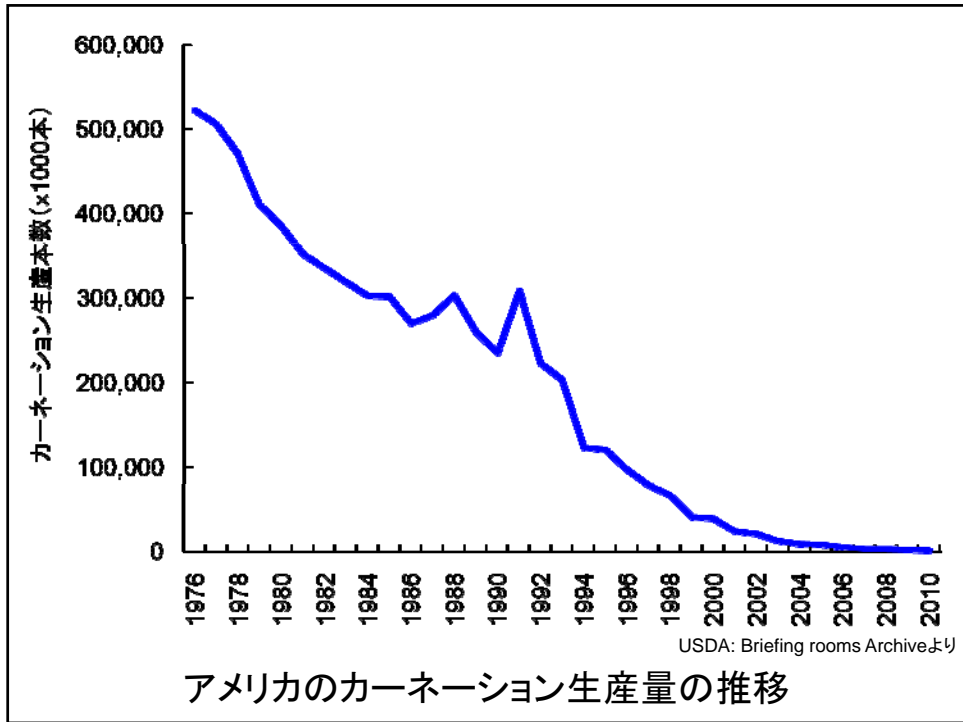
花き産業の現状と今後の展望

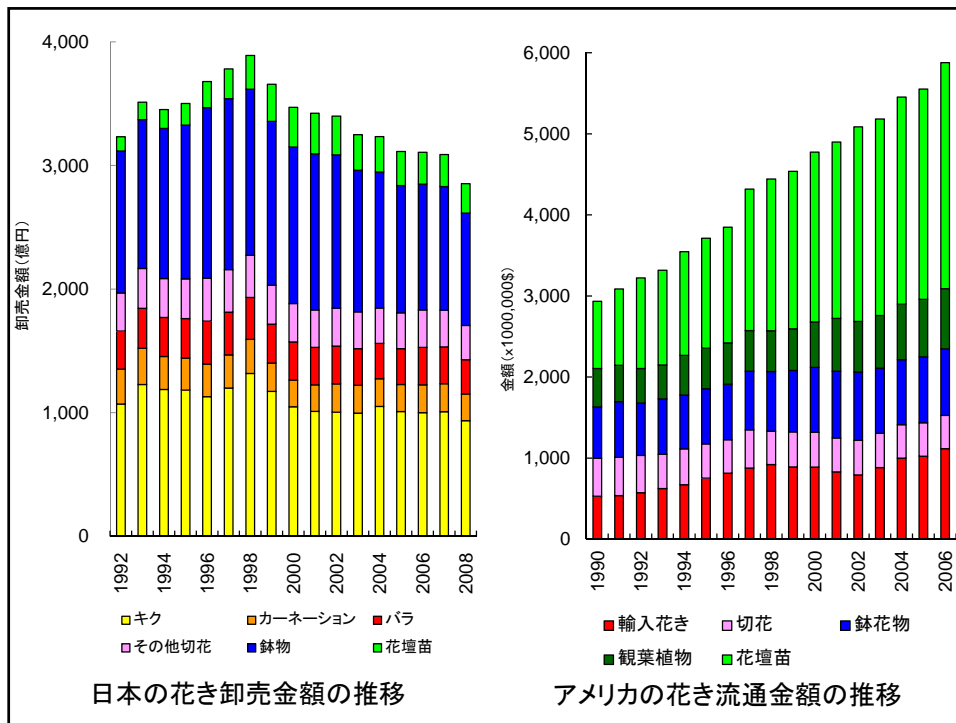
**岐阜大学応用生物科学部
福井 博一**

**日本とアメリカの
花き生産・消費動向の比較から
日本の現状と将来を分析する**



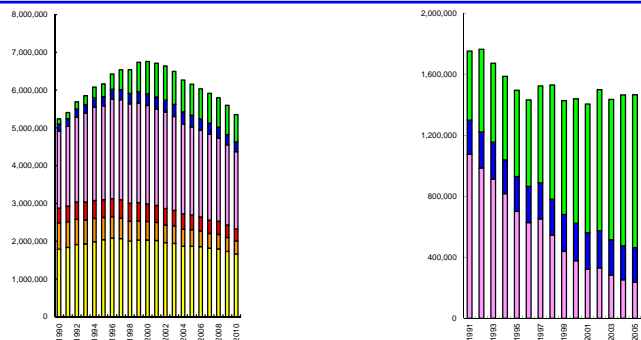


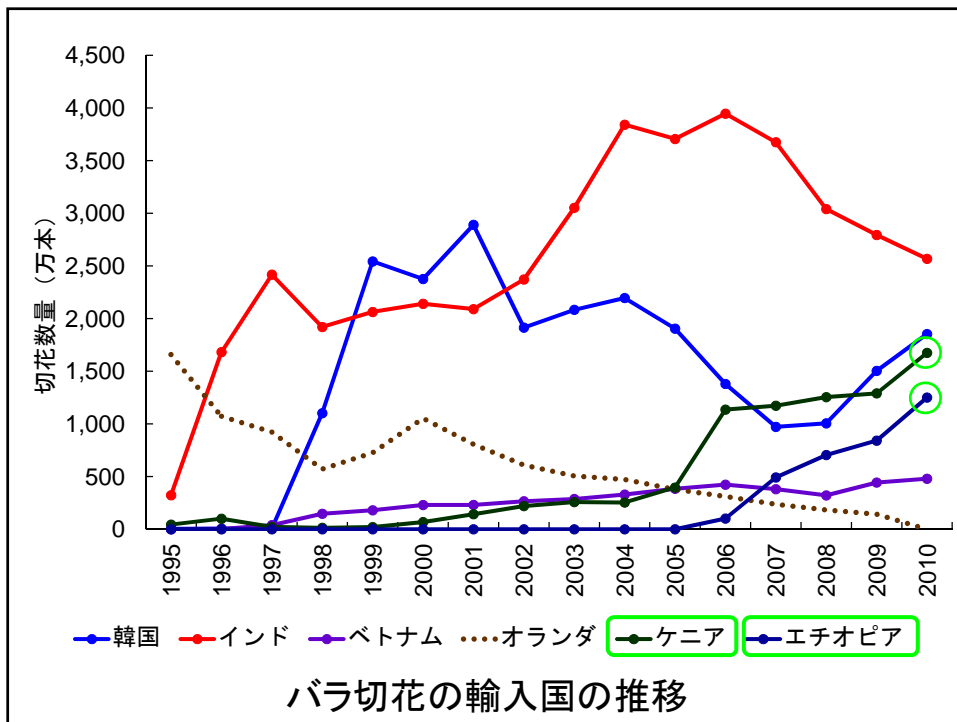
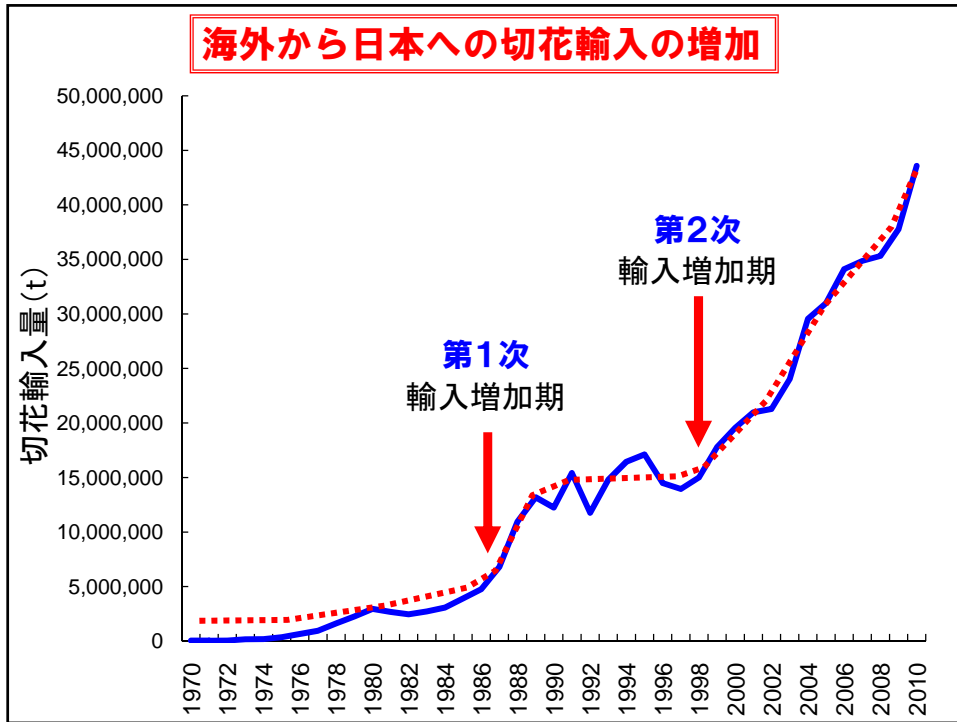


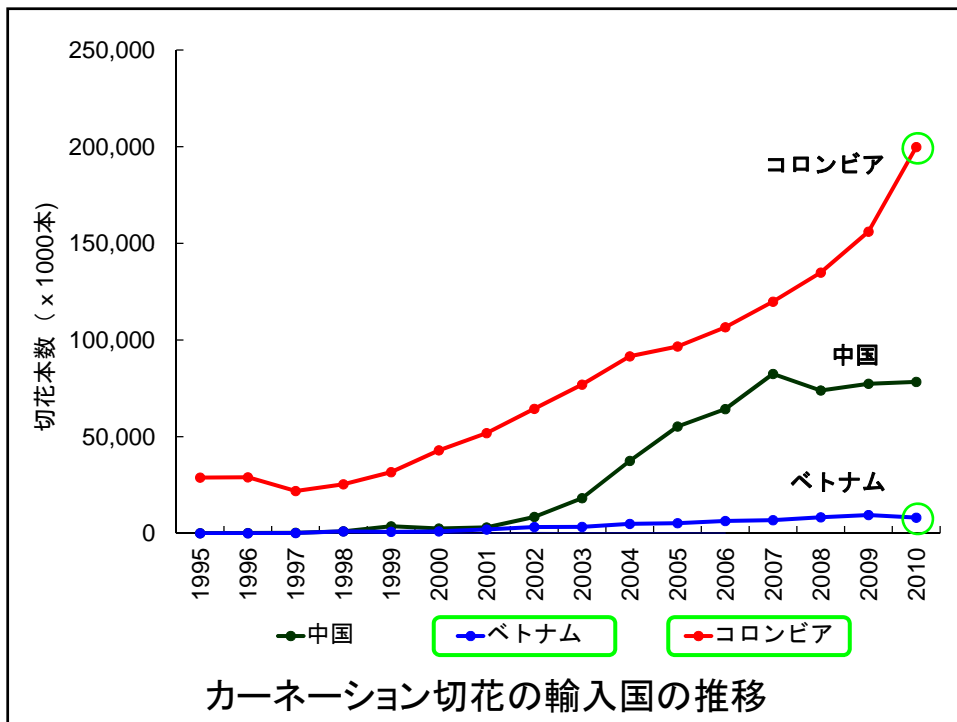
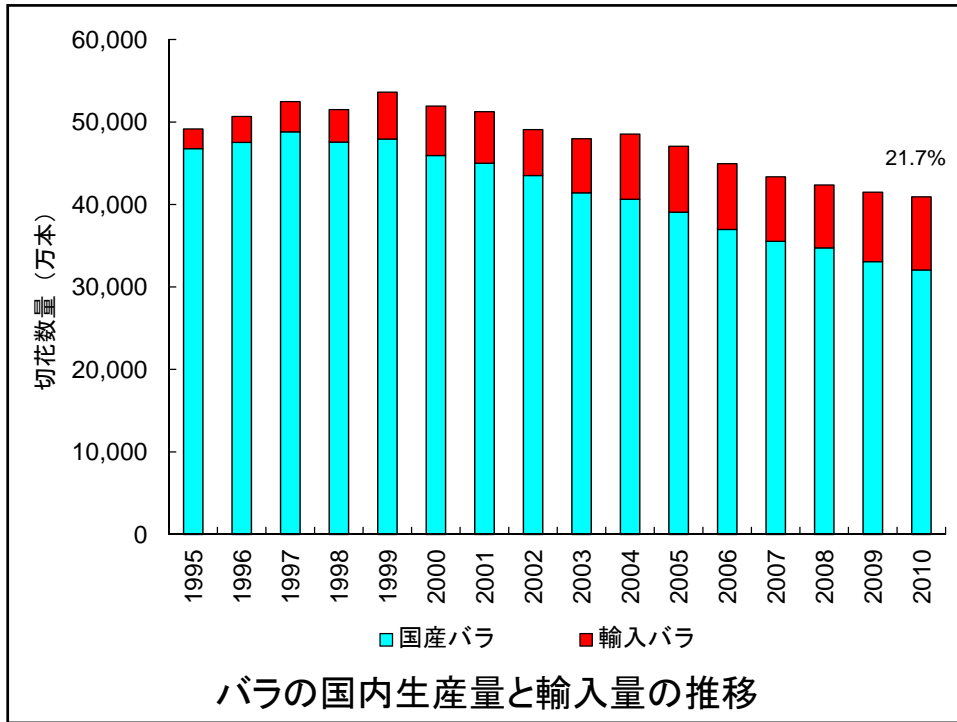


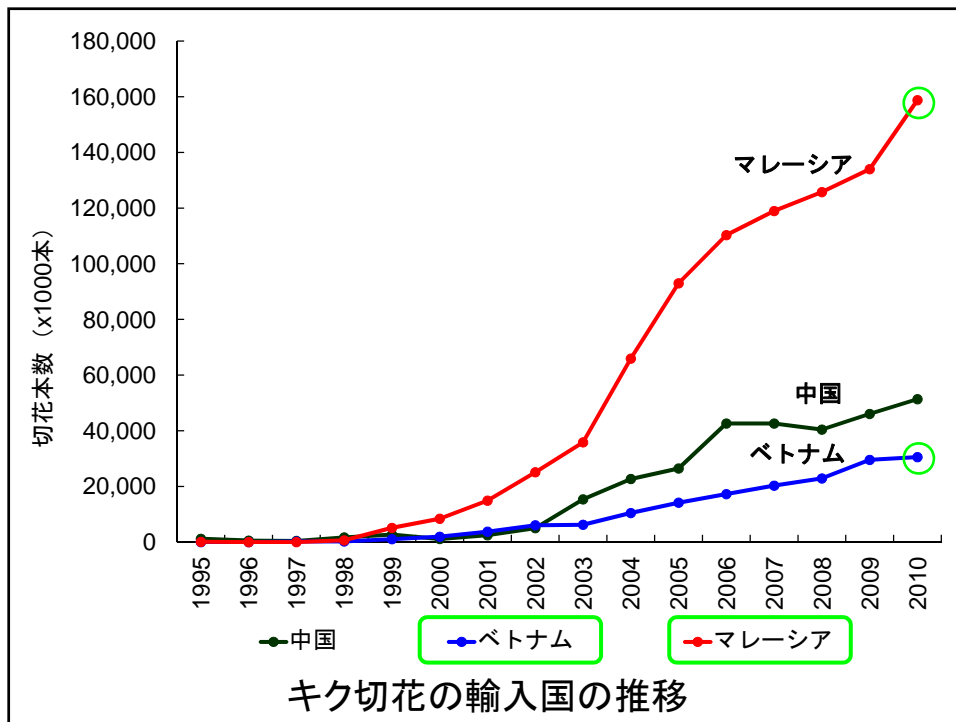
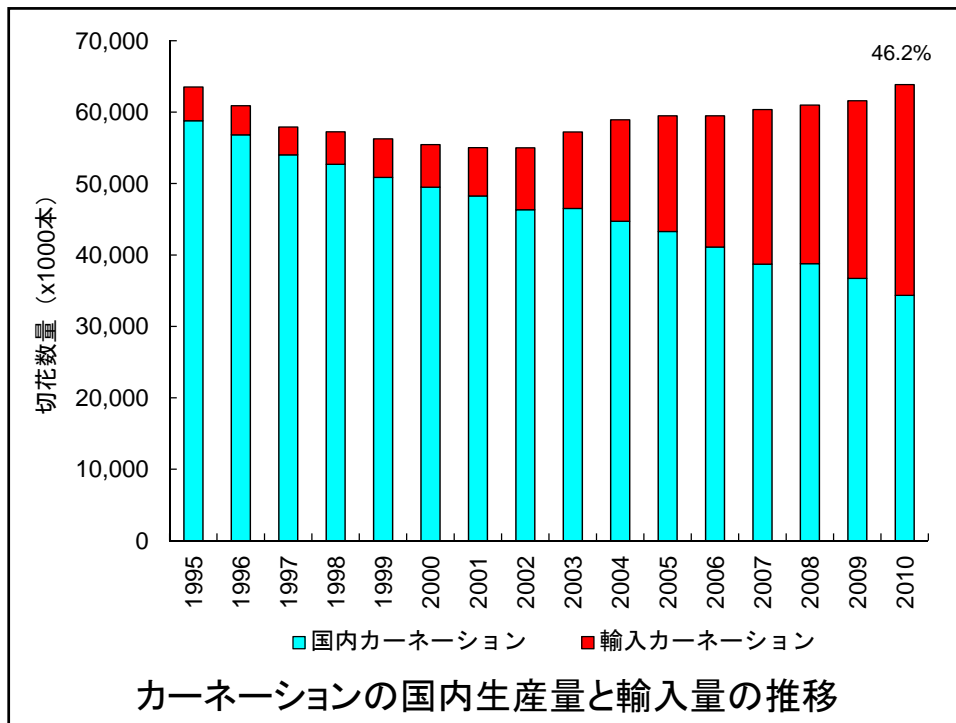
- ✳️ 日本は切花生産が主体 = 花壇苗の生産が極端に少ない
- ✳️ アメリカは海外からの輸入の影響を受けて切花生産が崩壊した
切花生産を補う形で花壇苗生産が急増！
- ✳️ アメリカも1970～80年代は切花生産が多くを占め、日本と類似した生産状況
その後、コロンビアからの切花輸入が急増し、切花生産が崩壊
- ✳️ 切花産業は国際流通が基本になり始めている

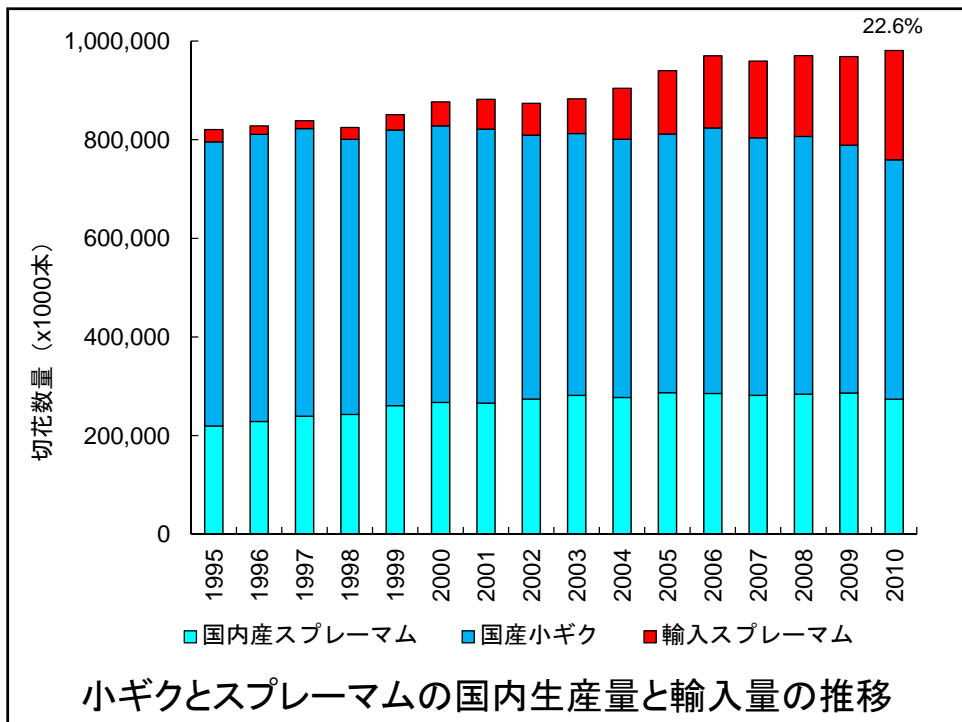
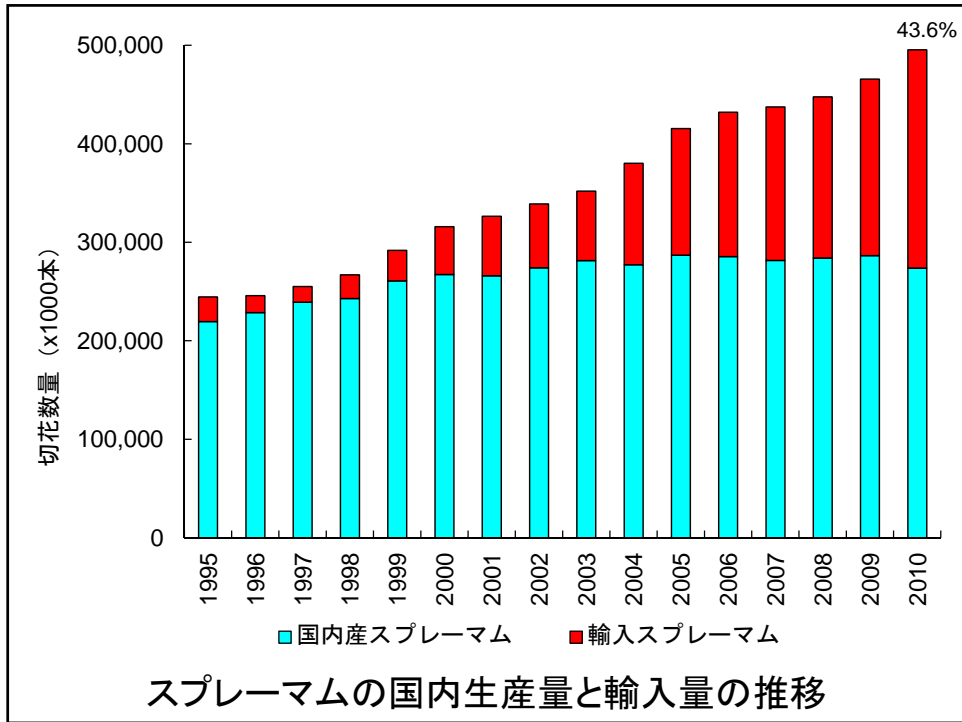
日本の花き産業、特に切花産業が受ける影響は極めて大きい

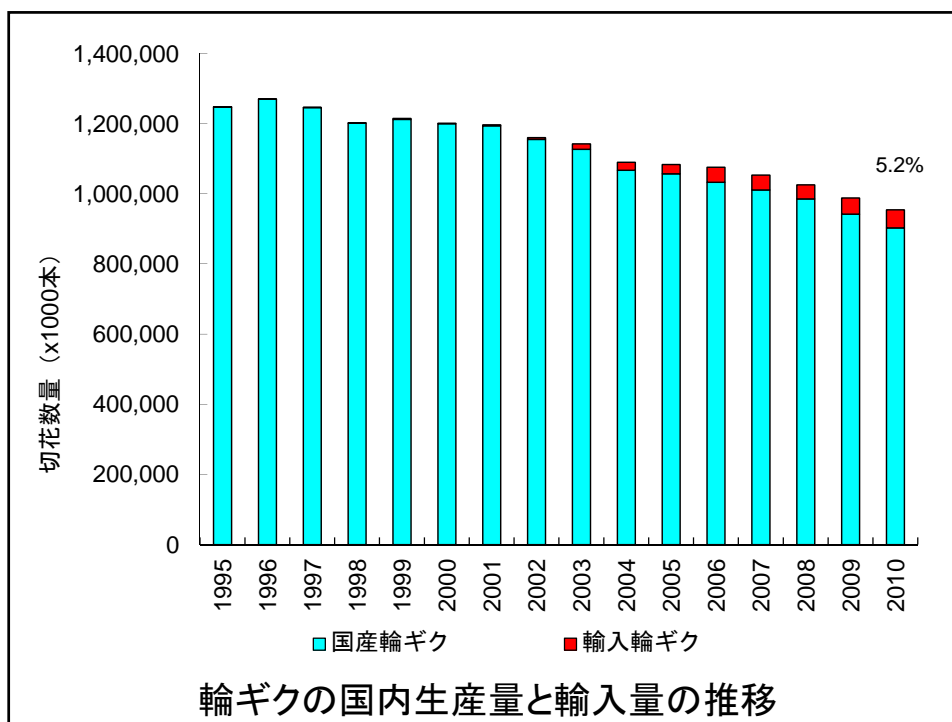












日本とアメリカの切花流通の相違

USA: コロンビアからの輸入が第1位
 【コロンビアの主な輸出国はUSA】
 エクアドルが第2位
 【エクアドルの主な輸出国はUSA】
 USAの国策として輸入を促進
 【コカイン密輸対策としてのアンディアン政策】
【フロリダ州マイアミが国内中継基地として機能】
アメリカのためにコロンビアは切り花を生産している！

→ 国内の切花生産業が完全に崩壊

日本: **バラ:** インドからの輸入が第1位
 【インドの輸出マーケットはEU・ロシアと日本】
カーネーション: コロンビアからの輸入が第1位
 【コロンビアの輸出マーケットはUSAと日本】
スプレーマム: マレーシアからの輸入が第1位
 【マレーシアの主な輸出国は日本】
輪ギク: 中国からの輸入が第1位
 【中国は国内消費が増加しており、輸出能力は減退】
 → **日本の切花生産業は崩壊するのか？**
日本のために切り花を生産しているわけではない！

アメリカには切花育種会社はない！

バラ Meiland(フランス)、Kordes(ドイツ)、Tantau(ドイツ)、de Ruiter(オランダ)
カーネーション Hilverda(オランダ)、Barberet & Blanc (スペイン)、Selecta(スペイン)
キク Deliflor(オランダ)、Dekker(オランダ)、Fides(オランダ)、Royal Van Zanten(オランダ)、精興園(日本) ……

国際的種苗会社は生産国にこだわらない！【種苗の国際販売】

☀ **輸入切花の主なニーズは？**

花束加工→スーパーで販売されるバック花束
 → 消費者に対する切花購買意欲の拡大
 =切花消費の底辺の拡大

☀ **国産切花の有利性は？ 新規育種！**

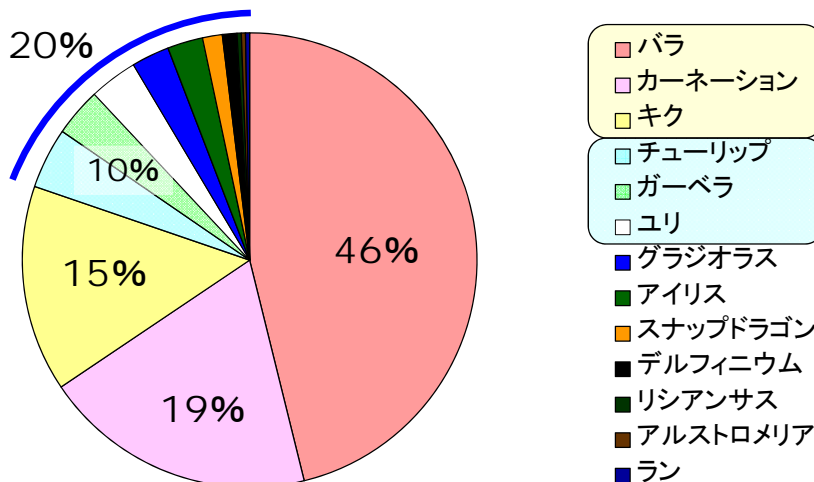
花保ち？花型？ → **日本・アジアの感性の重要性！**
 伊勢撫子、古典菊、中国古老月季
 香り！
 種間雑種、属間雑種の活用！
国際流通できない切花を育種する

☀ **生産コスト競争から離れる**

→ 生産コスト競争では熱帯高地の生産国には勝てない！

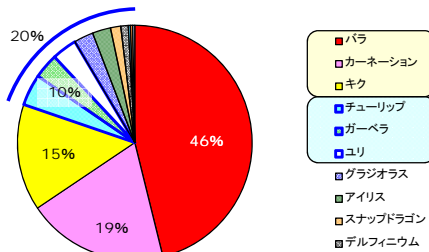
アメリカで流通している切り花の種類と割合 (2006年)

**切り花供給を海外に依存した結果、
 アメリカの消費者は欲しい花を飾れない
 【アメリカの生花アレンジは「文化」か？】**



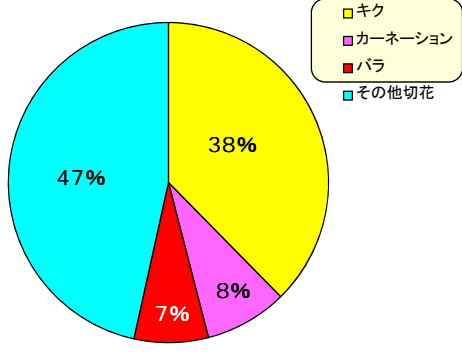
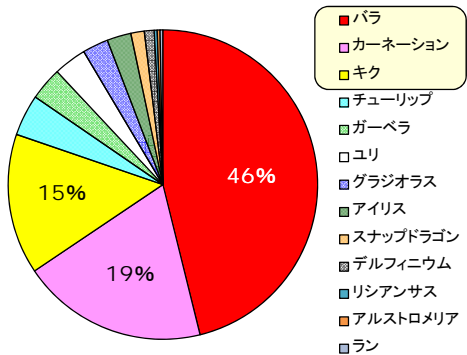
アメリカでは、

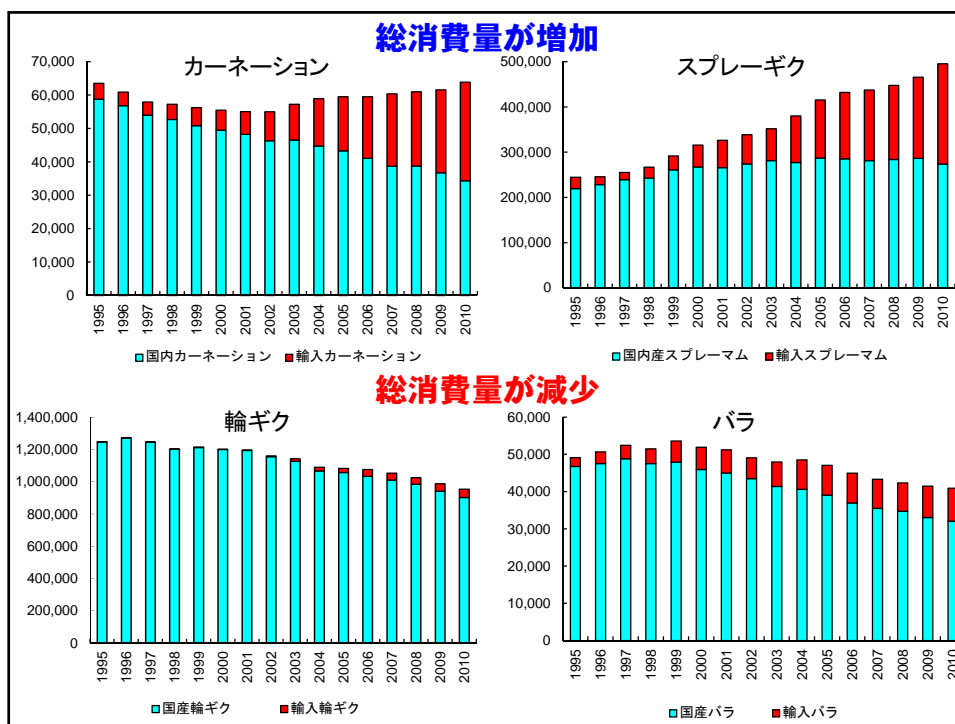
- ☀️ **バラ、キク、カーネーションで80%を占める**
- ☀️ **チューリップ、ガーベラ、ユリの6品目で90%**
- ☀️ **切り花販売はスーパーマーケットが主体**
- ☀️ **花束加工業が大きな力を持つ**
- ☀️ **コロンビア・エクアドルは熱帯高地
年中気候が同じ = 季節感がない**
- ☀️ **アメリカ国民は切り花で季節感を味わえない**



日本もアメリカのように切り花を海外に依存して良いのか？

- ☀️ **アメリカでは80%がバラ、カーネーション、キク
販売はスーパーマーケットが主体**
- ☀️ **日本は47%がバラ、カーネーション、キク以外！
豊富な花の種類を消費者に提供
季節感を重要視
生花店の販売額は65%（スーパーは12%）**





アメリカには切花育種会社はない！

バラ Meiland(フランス)、Kordes(ドイツ)、Tantau(ドイツ)、de Ruyter(オランダ)
カーネーション Hilverda(オランダ)、Barberet & Blanc (スペイン)、Selecta(スペイン)
キク Deliflor(オランダ)、Dekker(オランダ)、Fides(オランダ)、Royal Van Zanten(オランダ)、精興園(日本) ……

国際的種苗会社は生産国にこだわらない！【種苗の国際販売】

☀ 輸入切花の主なニーズは？

花束加工→スーパーで販売されるパック花束
 → 消費者に対する切花購買意欲の拡大
 =切花消費の底辺の拡大

☀ 国産切花の有利性は？ 新規育種！

花保ち？花型？ → **日本・アジアの感性の重要性！**
 伊勢撫子、古典菊、中国古老月季

香り！
 種間雑種、属間雑種の活用！
国際流通できない切花を育種する

☀ 生産コスト競争から離れる

→ 生産コスト競争では熱帯高地の生産国には勝てない！

ケニアの大規模バラ生産農場「Oserian社」



ケニア・Oserian社の温室(350ha)
【国内のバラ総面積:550ha】

東京デズニーランドと
デズニーシー
(130ha)

国策としての切花生産（外貨獲得）

優先的なインフラ整備（充実した道路網、貨物空港の整備）

年間一定した気温（熱帯高地）：無暖房、軽装備（低額の設備費）

低人件費：ケニア（1～2\$/日）、エチオピア（0.5～1\$/日）

広大な生産面積+企業資本（高度な生産技術と製品管理）

岐阜大学
65ha

同じ品種，同じ規格の生産では勝負にならない！

アメリカには切花育種会社はない！

バラ Meiland(フランス)、Kordes(ドイツ)、Tantau(ドイツ)、de Ruyter(オランダ)
カーネーション Hilverda(オランダ)、Barberet & Blanc (スペイン)、Selecta(スペイン)
キク Deliflor(オランダ)、Dekker(オランダ)、Fides(オランダ)、Royal Van Zanten(オランダ)、精興園(日本) ……

国際的種苗会社は生産国にこだわらない！【種苗の国際販売】

☀ 輸入切花の主なニーズは？

花束加工→スーパーで販売されるパック花束
→ 消費者に対する切花購買意欲の拡大
=切花消費の底辺の拡大

☀ 国産切花の有利性は？ 新規育種！

花保ち？花型？ → **日本・アジアの感性の重要性！**
伊勢撫子、古典菊、中国古老月季

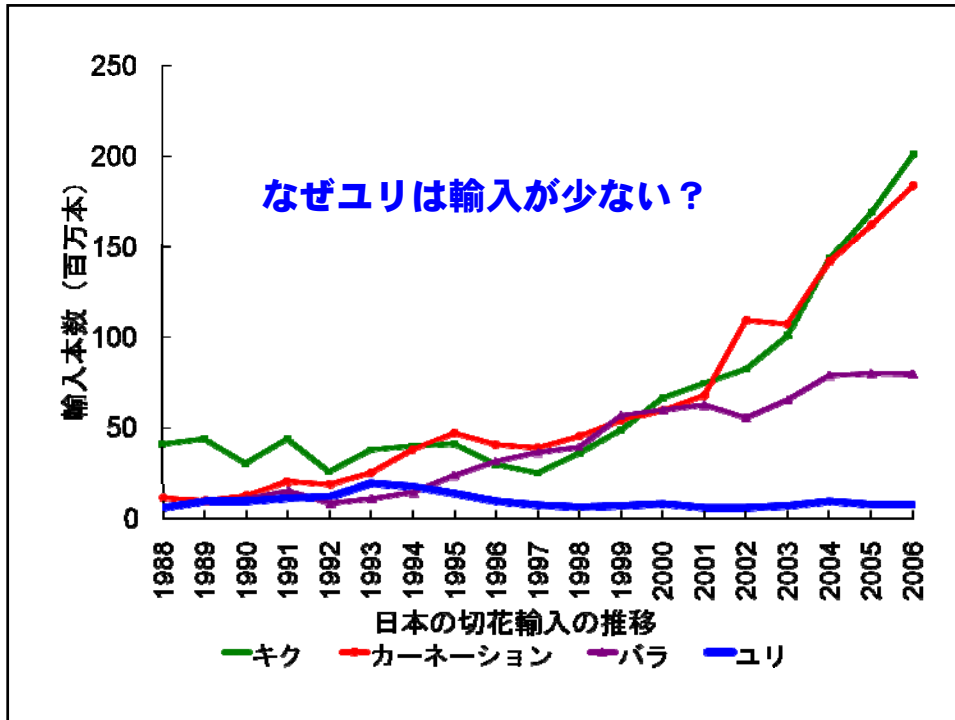
香り！

種間雑種、属間雑種の活用！

国際流通できない切花を育種する

☀ 生産コスト競争から離れる

→ 生産コスト競争では熱帯高地の生産国には勝てない！

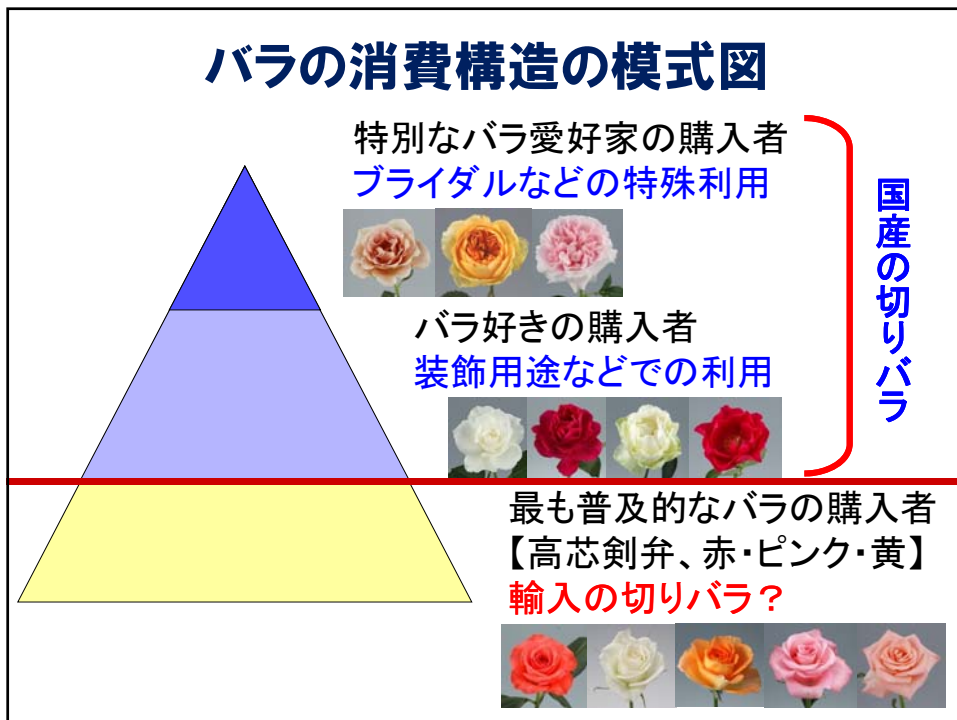


空輸の運賃は、容量と重量の最大値に従う
切花は重量が軽いため、箱にできる限り詰め込む



ユリやガーベラは、箱に詰め込んで輸送できないため、
空輸に適さない





国際流通できない切花を育種する



国際流通できない切花を育種する



新規切花品種の育種の活性化！

日本・アジアの感性に基づいた新しい花型

古典品種の活用

種間雑種、属間雑種の活用！

香りに重点をおいた新しい育種

販売チャンネルとの連携！

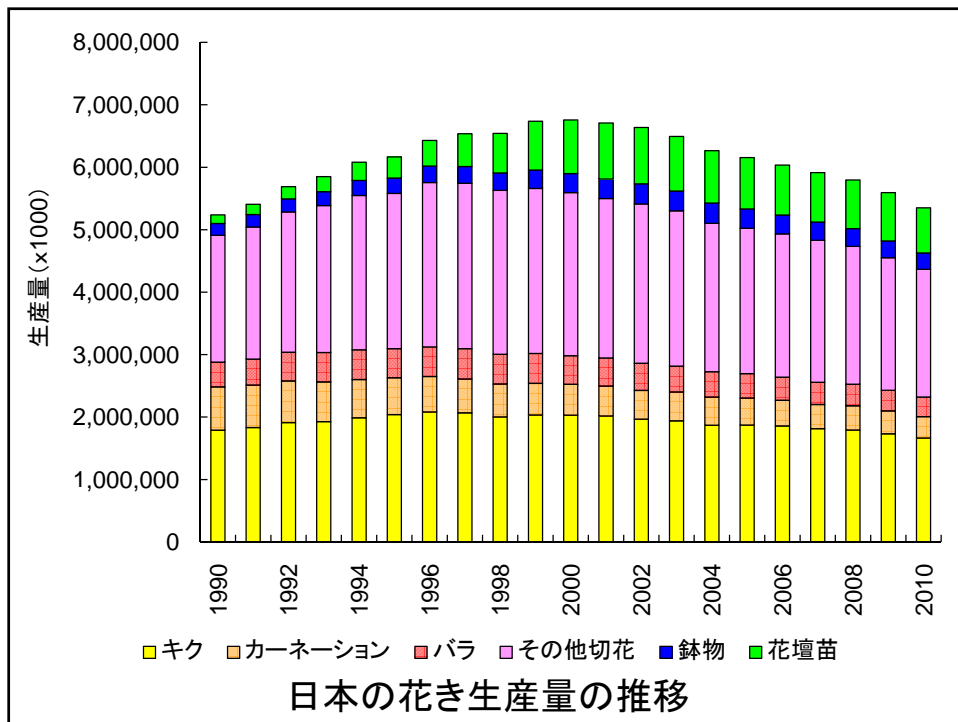
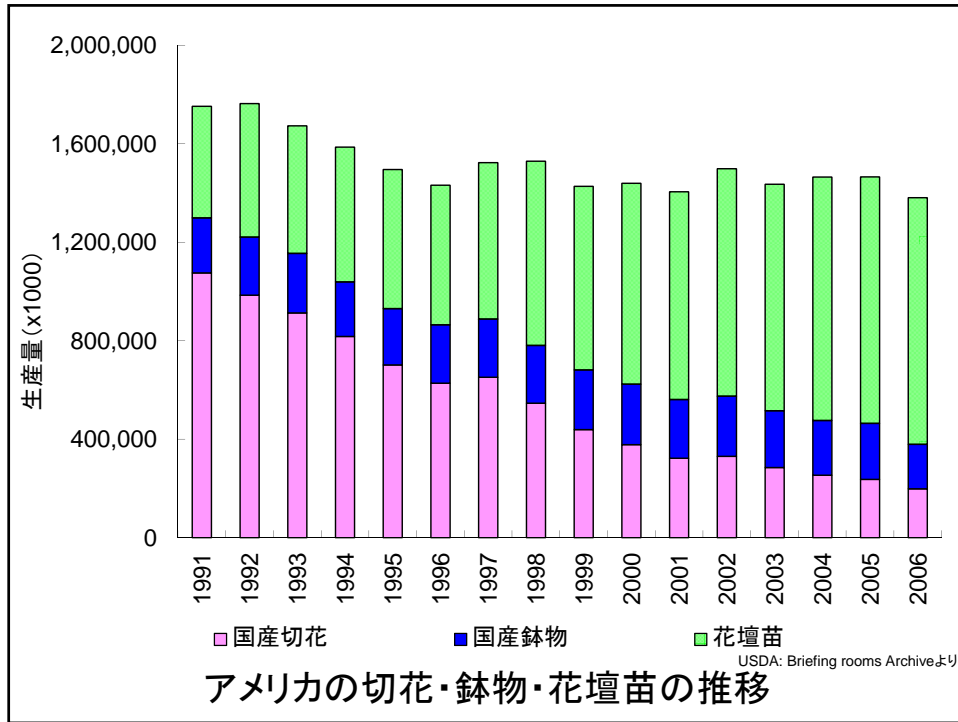
国際流通できない切花の育種・生産 → 流通

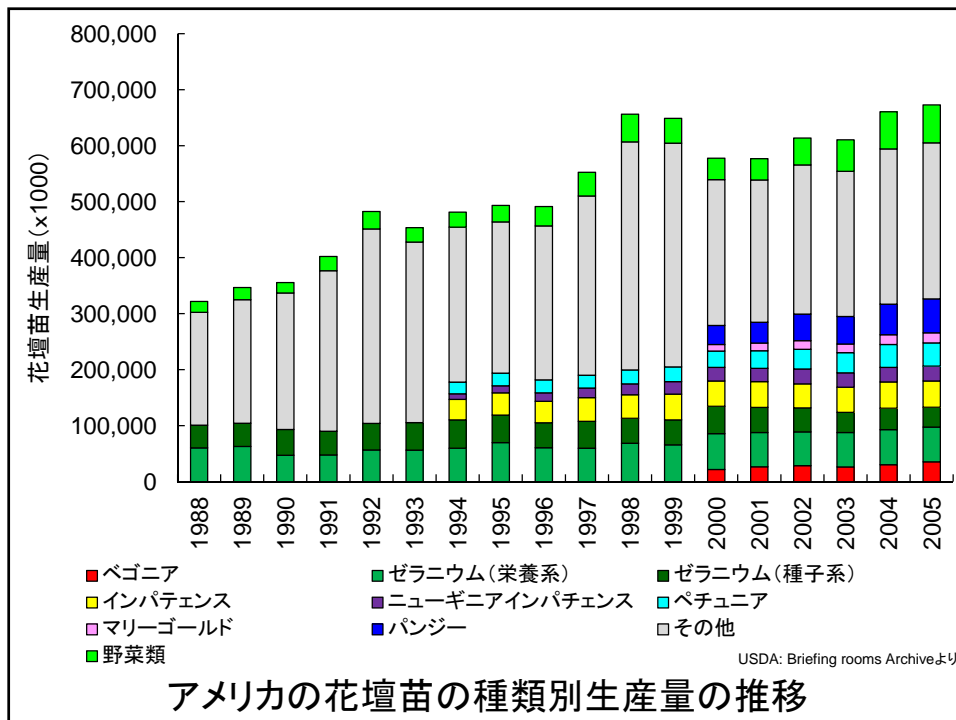
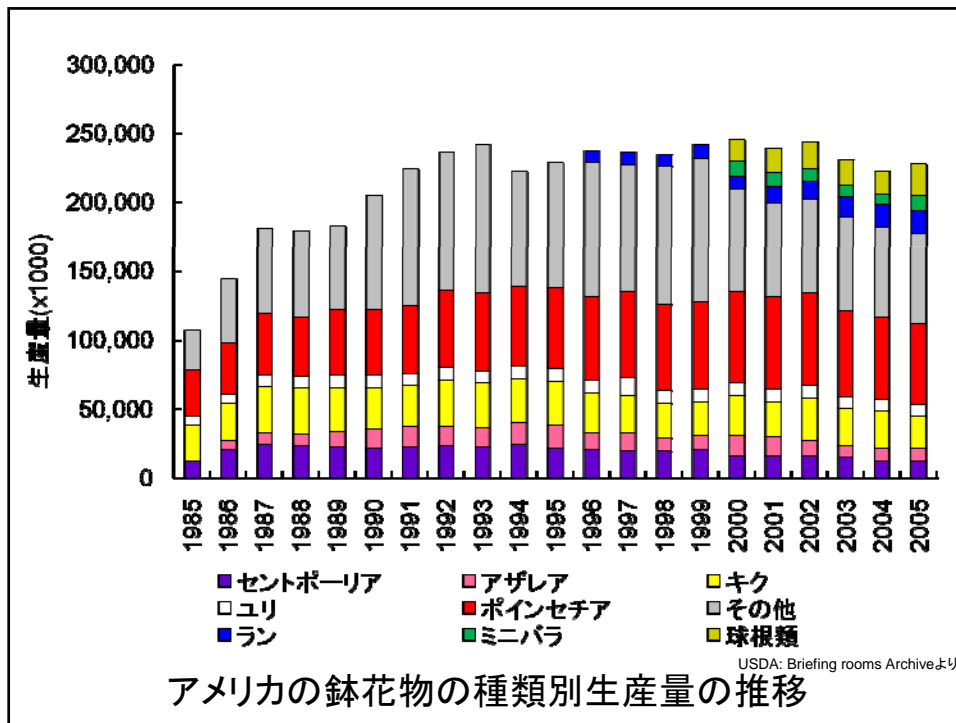
立て箱輸送

コールドチェーンの徹底

鮮度保持剤の開発・効果の検証

花壇苗・鉢物生産・消費の強化





アメリカの花壇苗生産・鉢物生産が強い理由

アメリカの種苗会社

Ball Horticultural Company 【一年草・宿根草種子(苗・鉢物)】

Paul Ecke 【ポインセチア】

PanAmerican Seed 【一年草(苗・鉢物)】

Yoder Brothers (Syngentaに吸収) 【キク鉢物】

Proven Winners 【一年草・宿根草種子(苗・鉢物)】

Sakata America 【一年草・宿根草種子(苗・鉢物)】

American Takii 【一年草・宿根草種子(苗・鉢物)】

ALL-AMERICA SELECTIONS

世界最大・最高の一年草・宿根草などの品評会

アメリカで高い評価を受けることが、
種苗会社の世界戦略に重要な意味を持つ！

国内育種事業・品評会(Japan Flower Selection)の充実

➡ 国内の花壇苗・鉢物生産業の活性化

花き研究の課題

1. 民間の花き育種開発を支援するための育種研究

- ・世界各地の植物園を通じた野生植物の導入
- ・倍数性育種などを含めた属間・種間雑種の育成
- ・国策としての育種の推進
(都道府県研究機関で育成された品種を国内で広く育種に活用)

2. 花きの流通・消費に関する研究の強化

- ・花き消費動向などの社会科学系分野の研究の強化
- ・10年後を見通した政策方針の立案支援

3. 生産現場と連携した支援研究

- ・応用研究の充実(論文投稿だけが目的ではない！)
『農学さかえて農業減ぶ』

公的研究費が減少するなかで、花き業界との連携研究を進める
【オランダの事例を参考にできないのか？】